

スペイン、ポルトガルの日本語の学びをもっと活発に

国際交流基金マドリード日本文化センター
関根 千紘

私が赴任しているマドリード日本文化センター(以下、JFMD)の日本語班ではスペインとポルトガルを対象に、(1)日本語を学ぶ人向けに講座の運営や各種ワークショップの企画・実施、(2)日本語の先生向けに研修会や講演会等の企画・実施、アドバイジング等を行っています。この中で日本語指導助手(以下、指導助手)は、2年間の任期のなかで主に(1)、日本語講座の運営(教務)や授業担当、ワークショップの運営を業務として行っています。JFMD の講座もワークショップも対象は幅広く、成人学習者だけでなく中等教育段階の方を対象としたものもあります。今回は特に JFMD の指導助手ならではの業務として、ワークショップを2種類ご紹介します。

日本語会話クラブ

「[日本語で話そう！ ¡Vamos a Nihonguear!](#)」、通称「ニホンゲアール」は、2014 年から JFMD で開催している日本語を学ぶ人と日本語話者(ネイティブ、バイリンガル)とのおしゃべり会です。日本語を通して楽しみ、知り合い、発見することを目的に、毎回テーマを決めて日本語だけで会話やゲーム、クイズ大会等を行っています。

参加する人は様々です。日本語のレベルも幅広く、日本語を学ぶ場も JFMD の講座に限らず公立および民間の語学学校、大学、独学の人もあります。日本語話者も、留学生や仕事のために駐在している人から、長年スペインに在住している人まで幅広く来ています。またコロナ禍以降はオンラインでも実施しており、スペイン国内マドリード以外からの参加者がたくさんいるだけでなく、隣国ポルトガルからの参加が増えたり、SNS 等でスペイン語の案内を見て中南米から参加してくれる人がいたり、さらに輪が広がっています。日本語で話すだけでなく、多様なバックグラウンドの人との繋がりができるのもニホンゲアールの魅力かもしれません。



Nihonguear オンライン(2023 年 12 月 日本ポルトガル交流 480 周年記念回)の様子

私が赴任してから約 1 年のこれまでに、対面とオンラインで各 5 回ずつニホンゲアールを実施し、のべ 307 名が参加しましたが、毎回学習者から日本語を使って話したい！他の人と繋がりたい！というモチベーションを強く感じます。また、JFMD の図書館を訪れた参加者から「次はいつ？」と聞かれたり、初めて参加してくれた人が次の回にも申し込んでくれているのを見たりすると、とても嬉しく思います。長年参加している人も新たな仲間も一緒になって楽しめる日本語コミュニティとして、今後も発展していければと思います。

気軽に日本文化に触れられる機会を

JFMD では「おためし文化日本語講座」と題して、日本文化と関連する日本語を紹介するワークショップを、日本語講座の受講生向けには各学期に 1 回、その他外部機関や日本関連イベントでも不定期に実施しています。「おためし」の名の通り、専門的な講演会等ではなく、興味のある日本文化に触れてみるきっかけとして多くの人に参加していただいています。テーマは幅広く、これまでアニメやマンガに使われる日本語や日本のビジネスマナー、風呂敷包み等を取り上げて実施してきました。

その中から今回は、私が新規に企画、開発した「組紐」をテーマにした回をご紹介します。このワークショップは 2023 年度に『まるごと』講座受講生向けにオンラインで初開催しました。

みなさんは和装小物や日本刀の鞘に使われる組紐についてご存じでしょうか？最近ではアニメ映画に出てきたこともあり、参加者のなかには知っているという人も複数名いました。ワークショップの前半では写真を見たりクイズに参加したりしながら、「組紐とはなにか」「用途や材料はどんなものか」「どんな歴史があるか」を学びました。



おためし文化日本語講座「組紐」の様子

ワークショップの後半では、事前に送付したキットを使って簡単な組紐のキーホルダーを編んでみる体験を行いました。今回初めての実施、さらにはオンラインということで、材料がきちんと手元にあるか、細かい作業が各自うまく進むかといった不安もありましたが、無事に全員のもとにキットが届き、みなさん素晴らしい集中力でどんどん編んでいました。編む作業のときには「糸」「ギュッと(結ぶ)」、編んだ後には自分の組紐を紹介する会話として「私の組紐は～～色です」といった日本語を導入し、文化を知る、体験するだけでなく日本語にも目を向けたアクティビティを心掛けました。

新しいテーマ、かつ手を動かすアクティビティということで、ワークショップは満足度 100%で無事好評に終わりました。参加者からは「新しいことを学べて面白かった」「理論的な説明だけでなく体験や日本語での短い会話セッションがとてもよかった」という声も聞かれ、まさに「おためし」として功を奏したと思います。またその後外部機関からも要望を受け、実施に向けて動いています。

教科書の学習から一歩外に出て日本文化に注目する「おためし文化日本語講座」。今後も現地の興味に応えながら、さらなる新しいテーマの講座開発も含めて継続したいと思います。

今後に向けて

着任から 1 年を終えて業務にも一通り慣れ、現場の面でも教務や企画等の運営の面でも多く学びを得ましたが、同時にもう帰任まで 1 年を切ってしまいました。2 年目は 1 年目で得た知見、経験を活かすだけでなく、既存の講座やワークショップに新たな試みを取り入れたり、新しいコースや教材、アクティビティを開発してやってみたりと、多方面にどんどん挑戦していきたいと思います。指導助手の業務を通じて JFMD の日本語コミュニティに集う人を増やし、ひいては当地の日本語学習環境をさらに改善することに寄与できるように努めたいと思います。

以上